



地域日本語支援ニュース こだま 第 345 号

2018.9.13



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる：仙台市から■

いざという時、〈やさしい日本語〉が役立つために  
多文化社会コーディネーター（多文化社会専門職機構認定）  
公益財団法人仙台観光国際協会 菊池 哲佳

2■ 高校進学進路ガイダンス情報（9、10 月）■

3■ お知らせ ■

「2018 年度 日本語教師のための夏の教え方講習会」  
～JBP1 講習会の日程について～

=====

1■ともに生きる：仙台市から■

菊池哲佳（きくちあきよし）さんは、仙台で多文化共生の地域づくりを実践しています。また、多文化社会専門職機構の事務局長として多文化共生に取り組む人びとのネットワークづくりに向けた活動をしています。東日本大震災発生時、菊池さんたちは〈やさしい日本語〉を含む多言語情報提供を行いました。それらの経験から、今回、菊池さんには〈やさしい日本語〉を日ごろから使うことの大切さについてご寄稿いただきました。

.....

いざという時、〈やさしい日本語〉が役立つために

多文化社会コーディネーター（多文化社会専門職機構認定）  
公益財団法人仙台観光国際協会 菊池 哲佳

#### ◆「運転見合わせ」というお知らせ◆

今年の3月、出張で新幹線に乗るため、駅に向かった時のことです。駅に着くと、新幹線の改札付近は多くの人たちでごった返していました。乗車券の発売所にも、長蛇の列です。「どうしたんだろう？」とあたりを見まわしましたが、すぐには分かりませんでした。新幹線の発着を知らせる電光掲示板を見ると、列車の運行が軒並み大幅に遅れていることに気づきました。そして、構内に流れているアナウンスを注意深く聴くと、どうやら強風の影響で多くの新幹線が運転を見合わせているということが分かりました。改札付近では駅員さんたちが利用者からの問合せに追われていますし、困り顔でスマートフォンを見つめる人や、慌ただしそうに電話する人など、新幹線改札のあるフロアはなんとも落ち着かない様子です。改札近くにホワイトボードが立てられているのが見えたので、近づいてみると「強風による新幹線運転見合わせ」とあり、列車の運行状況の詳細がペンで手書きされていました。

#### ◆ いざという時の〈やさしい日本語〉◆

その時に思ったのは、こんな時こそ〈やさしい日本語〉が役立つのでは、ということでした。集まっている人びとの中にはきっと日本語を母語としない人もいるかと思うのですが、アナウンスやホワイトボードのお知らせが全く理解できず、何が起こったのかも分からないのではないかと思います。また、列車の発着を知らせる電光掲示板を見れば、列車が予定通りに運行されていないことはどうにか分かるものの、新幹線が強風のために止まっているとは想像もつかないのではないかと考えました。あるいは、飛行機への乗り継ぎなどで今後の運行の見通しが気になる人もいるかと思うのですが、おそらく代替の交通手段を検討すべきかどうか判断できないように思われます。

このような時、理想を言えば、多言語でのお知らせがあると良いかとも思います。しかし、それらの言語に翻訳できる人材をすぐに確保することは難しいでしょう。「災害時多言語表示シート」（自治体国際化協会）などの翻訳ツールを活用することも1つの有効な方法ですが、駅員さんはさまざまな問合せなどへの対応に追われる中、それらを利用する余裕はなさそうです。

#### ◆ 日ごろから求められる〈やさしい日本語〉マインド ◆

そこで、このような時こそ、〈やさしい日本語〉が生きてくると思うのです。

たとえば、「強風による新幹線運転見合わせ」も「つよい風で、新幹線は止まっています」といった一文を併記することで、おおよその状況は把握できて助かる人もいないのではないかと想像します。

とはいえ、〈やさしい日本語〉は普段から心がけていないと、いざという時に使えないでしょうし、そもそも〈やさしい日本語〉を使うという発想に至ること自体が難しいでしょう。だからこそ、日本語教育に関わる私たちが場面に応じて積極的に〈やさしい日本語〉を使い、広めていくことが求められます。

今回ご紹介した出来事は、日常に起きたささいな一場面に過ぎませんが、日ごろから〈やさしい日本語〉のマインド（気持ち・心がけ・態度）を持ち、状況に応じて実践することが、いざという時にも役立ちますし、〈やさしい日本語〉に込められた「多文化共生」の理念の普及につながるものだと思うのです。

---